



## 教授の呟き

### 第45回

# 物流のヒントは、赤ちゃんと高齢者から

東京海洋大学教授 苦瀬博仁

#### ●●● 老眼デバイド<sup>(注)</sup>と商品開発 ●●●

20代半ば、激しい頭痛に見舞われた。病院で調べてもらったら、遠視による目の疲れとのことだった。遠視は普段何でも見えるから、目の異常に気づかぬまま疲れのたまる厄介な代物である。それ以来、遠視用のメガネを掛けている。

これに輪をかけて困るのが、遠視の老眼である。近視の人は老眼になってもメガネを外せば細かい字も読めるらしいが、遠視の老眼は近くも遠くもメガネが手放せない。

しかも少しずつ度が進むので、ときおりメガネを買い足していく。そのたびに老化を自覚させられ、いやが上にも、自らの行く末にある高齢化社会について考えてしまう。

老眼になって困ったことの一つが、入浴である。メガネを浴室に持ち込むことには、何となく抵抗がある。しかしメガネがないと、シャンプーの注意書きなどまったく読めない。

シャンプーとリンスを取り違えることもしばしばあったが、最近文字の色で区別されていることに気がついた。しかし、白文字がどちらだったか毎回忘れてしまう。シャンプーなら、大きく「シ」と書いてあれば……、と思う。

最近、高齢者の間に、大きな文字で表示する携帯電話がはやっているようだ。そのうち、シャンプーなどの日用品も高齢者用が出回るのだろうか。

#### ●●● 高齢者向けの運びのサービス ●●●

高齢者にとっては、荷物運びもひと苦勞だ。日常の買い物でも、持ち帰りがつらくなったら、購入品を宅配してくれるスーパーやコンビニに行くしかないのだろうか。スーパーまでの自動車の運転にも自信がなくなったら、買い物にも出かけにくくなる。

本格的な高齢化社会を迎えると、購入商品の宅配サービス、総菜の通販、現代版のご用聞きなどの需要が、爆発的に増えるのだろうか。それとも、いま衰退しつつある住居近くの商店街が復活して、高齢者による新たなにぎわいを見せるのだろうか。

歳を重ねれば、病気や怪我で入院することもあるだろう。そのとき、だれが入院用の荷物を運んでくれるのだろうか。病院に通うとき、診療後に多くの薬をもらったなら、抱えて持ち帰ることができるだろうか。

そんなことから、手ぶらで入退院したり通院できるようにと、「手ぶら入退院パック、お薬宅配パック」を東大病院で試行的に導入している。アンケート調査によれば、患者や病院スタッフに極めて好評である。(1)

#### ●●● 経験が生む物流のアイデア ●●●

「物は、生まれたての赤ちゃんと同じ」。これは物流の恩師であるN先生の言である。

人は歩いたり階段を上ることがで



「老眼デバイド」



「お薬宅配パック」



「物は生まれたての赤ちゃんと同じ」

きるが、物は自ら移動できない。赤ちゃんは、まだ歩けないし、どこに行くかも説明できないし、薄着でいれば風邪をひくこともある。物流から見ると、乳母車が台車、迷子札が伝票、衣服が梱包と温度管理に相当するのだろうか。

「歳をとると、次第に赤ちゃんに近づく」というが、乳母車のかわりに、車いすを使うときもあるだろう。

都市内のビルや道路で円滑に物流活動を行うために、物流バリアフリーという考え方がある。円滑な配送や荷さばきのために、階段の段差をなくしたり、駐停車場所を設けるものである。

自らがバリアフリーの必要な高齢者に近づくほど、体験も含めて物流バリアフリーの必要性も感じることだろう。(2)

### ●●● シルバーパワーへの期待

新商品開発であれ、新たな物流サービスであれ、物流バリアフリーであれ、高齢者にまつわる部分は大きい。現役時代をロジスティクス分野で過ごし、物流のノウハウを持ちつつも、第一線から少し距離をおいている方が多い。その方たちこそ、普段では気づきにくいテーマや新鮮なアイデアが浮かぶことも多いと思う。

ロジスティクス分野の諸先輩に、実はひそかな期待を持っているのである。

(注) 老眼デバイド：パソコンやインターネットなどを使いこなせる者と使えない者や、情報機器を購入できる者とできない者の間に生じる待遇や機会の格差を、デジタルデバイド(digital divide)という。これを参考に、老眼により生じる格差を老眼デバイドとしてみた。

- (1) 東京大学大学院医学系研究科ホスピタルロジスティクス講座  
URL : <http://hpt-logi.umin.jp/>
- (2) 国土交通省総合政策局貨物流通施設課、発表資料、平成14年6月25日付け  
URL : [http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha\\_02/01/010625\\_.html](http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha_02/01/010625_.html)

東京海洋大学 海洋工学部  
流通情報工学科 教授

**苦瀬博仁**

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂) <http://www.e.kaiyodai.ac.jp/~kuse/>

